

梅窓院通信

青山



お檀家様から頂いた可愛い前掛けを着けたオシャレなお地藏さま

住職挨拶

梅窓院第二十五世

中島真成

今年もはや秋彼岸を迎える頃となりました。春と秋のお彼岸は皆様がお墓参りされ、ご先祖様に近況のご報告や、悩み事をご相談されるなど、皆様とご先祖様を結ぶ大切なしきたりのひとときです。



梅窓院には、古くからの檀家様に加え、「青山にお墓を持ちたい」という方のために多種多様なお墓を用意させていただいています。大きな形態は違えども、皆様にとってかけがえのない方が眠られている大切な聖地です。この秋のお彼岸もお墓参りにお越しください。

さて、その墓苑ですが、七月一日から原則禁煙とさせていただきます。また、参道脇の休憩室の麦茶の提供も終了とさせていただきます。今までご利用いただいた方にはご不便をおかけします。どちらも時代の流れに沿っての対応とご理解ご了承ください。どちらも時代の流れに沿っての対応とご理解ご了承ください。

お飲み物に関しては受付横に自動販売機を設置いたしましたので、こちらをご利用いただけますようお願い申し上げます。

そして、自動販売機設置に伴い、それまで受付横にあった喫煙スペースを撤去させていただきました。また、東屋などに用意しておいた灰皿も仕舞わせていただきました。とはいえ、タバコが吸えないと非常に困るという愛煙家もいらっしゃるかと思いますので、受付に携帯用の灰皿を用意し、貸し出させていただけます。他のお参りの方へ十分なご配慮をいたしながらの喫煙をお願いいたします。

最後にお知らせですが、梅窓院開基の青山家の故郷、岐阜県郡上市の市長が代わられました。日置敏明前市長から山川弘保市長にバトンタッチされましたが、新市長は歴史を辿ると青山家との関係もおありだそうです。今夏、表敬訪問へお伺いをする予定です。

法話 仏教歳時風物詩(67)

秋の夜長、南無の心

新宿区 香蓮寺住職

勝崎 裕彦

俳

諧俳句では、春は日永、夏は短夜、秋は夜長、冬は短日と決まったものである。

夜長・長き夜・長夜などが秋の季語欄に並べられているが、実際に一年中てもっとも夜間が長いのは冬至前後の頃ではある。しかし季節・季節感というのは人の心持ちの感じ方、受けとめ方であり、秋の夜のしんみりとした、しみじみとした気分が、夜長の秋として日本人の情感に深く溶け込んできたのである。

さて秋はまた「読書の秋」でもある。この秋の夜長を心静かに、心落ち着けて、読書に勤しむのも大いによいことであろう。朱子学の大成者朱熹は、「読者三到」という三つの読書の心得を提唱している。心を書物に集中する心到、目で書物をしっかりと見る眼到、口で書物をはつきりと読む口到の三つである。このうち、「心到最も急なり」（『訓学斎現』）と記し、心到がもっとも大切であるとしていることは言うまでもない。しかしながらこの心到も、目で見ると、口で読む口到を決しておろそかにしないということが前提である。「文字一文字よく見て、一文一節を口に出してよく読んで、文意を心して読み取り、文章を心から味わうのである。」

を鑑賞したい。

長き夜や生死の間にうつら／＼（鬼城）
長き夜の苦しみを解き給ひしや（汀子）

村上鬼城は「ホトトギス」創刊以来、子規に師事、虚子の温情に導かれて、貧者や老少、弱者に寄り添う境涯俳句という独自の領域を築いた人である。いずれのものにも揺るぎない尊いのちがあることをしっかりと見据えた句作は多くの秀句となっているが、この句は、鬼城の日頃の刻苦勉勵におけるちよつとした合い間のように、夜長の秋の「うつらうつら」となっている。

稲畑汀子は高浜年尾の二女。年尾没後、昭和五十五年から「ホトトギス」を主宰した。虚子以来の伝統を継承しながら、自然と一体化するやわらかく大きな感性が作品に結実している。しかしこの句は、「：給ひしや」と置いた下五が女性らしい素直さを表現して、とても好ましい句となっている。

永劫の如し秋夜を点滴す（草城）
長き夜や高野の寺の紙まくら（せき）
合掌の手を組ませたる真夜の秋（綺羅）

ここに掲げた三句は言うところの仏教句である。永劫は「えいごう」と読

んでもよいが、仏教語としては「ようごう」と読む。劫はカルパの音写語で、限りなく長い間、無限の時間、永久のことである。日野草城にとつて、きわめて長い間の点滴であったことであろう。香川せきは、真言密教の聖地、高野山の宿坊での秋の一夜のさわめて素朴な感懐である。金井綺羅の句は、まことの夜、真実の夜という意味の「真夜」の二文字がよく効いている。

ところで俳句の鑑賞は、まず上五（初五）・中七・下五（座五）の十七文字の言葉遣いや字配り及び季語の位置などをよく目配りして見分け、見究め、さらに口に出して読んでみる、声を出して誦し、口ずさんでみることから始める。そして俳句の意味を理解しながら、句心・句想を思いやり、俳句の心を深く賞味することが肝要である。

とりわけ仏教にまつわる仏教句の中には、仏心を詠み込んだ仏心句も多くあり、まさしく南無の心さえ感得できるのである。すなわち、思わず手を合わせてしまうような、まさに名句と称されるものもあるというわけである。私もそんな句を作ってみたといふ心から思う。

南無秋や念仏の声高く行く（裕彦）

（大正大学名誉教授）

5・6・7月の行事報告

要・五〇年（併修）
法宗八要
会開念法
鬼宗記
餓土讚
施浄慶
5月18日（土）



開山忌法要
能楽奉納
6月8日（土）



第86回念仏と法話の会
6月27日（木）

郡上おどりin
青山法要
6月14日（金）



盂蘭盆会法要
7月13日（土）



秋彼岸法要

九月二十二日(日・祝)

ご法要の受付は一階観音堂にてお済ませてください。
祖師堂入口はご利用いただけませんので、ご注意ください。

彼岸寄席

午後一時～地下二階祖師堂

秋彼岸会法要

午後二時～地下二階祖師堂

※場所や内容が変更になる場合がございます。

三遊亭歌る多師匠プロフィール

一九六二年荒川区生まれ。一九八一年三遊亭團歌師匠に入門。一九九三年女性初の真打ち昇進(女流枠)。

二〇〇〇年女流枠撤廃され、男性と同様の真打ち扱い。寄席・落語の会から、講演会・司会業、コラム執筆など活動の場は幅広い。



令和5年の秋彼岸の様子

二〇一〇年八月
二〇二四年六月まで
落語協会理事・
演芸家連合常任
理事を務めた。
前座・金原亭駒介

お檀家様へお願い

- お彼岸前後の土・日・祝日はお参りに来られる方の車で境内が大変混み合います。ご来寺の際は電車等、公共交通機関をご利用ください。
- 9月20日～25日まで、境内駐車スペースは、お体のご不自由な方、車椅子をお使いの方の車を優先とさせていただきます。ご協力をお願いいたします。
- 会場内の空調は微調整が難しいため、ご自身で温度調整できる服装でご来寺ください。

塔婆申込み方法

塔婆回向料…1本/7,000円

- お申込み方法
同封ハガキにご記入の上、9月15日(日)必着でお申込みください。
- お支払い方法
同封の払込取扱票で郵便局にてお支払いいただくか、受付までお持ちください。
銀行・コンビニでのお支払いはできません。
また、払込取扱票に記載の口座番号00130-4-93033はお支払い金額でございませんので、ご注意ください。
- お塔婆のお渡し
彼岸会法要終了後にお渡しいたします。ご欠席の場合は後日、僧侶にて建てさせていただきます。
ご不明な点は梅窓院受付までお問い合わせください。

秋彼岸会によせて

少し涼しくなる頃でしょうか。そうなればと願ひもこめて。皆様はいかがお過ごしでしょうか。

さて、四月から六月まで上野の東京国立博物館で開催されておりました特別展「法然と極楽浄土」はご覧になりましたか。京都国立博物館へ会場を移して十月八日からまた展示が始まります。東京会場とは展示内容が変わるようですので、東京でご覧になった方も京都へお越しの際はぜひ足をお運びください。

目玉の展示物はやはり修理が済んだばかりの国宝「早来迎」(京都・知恩院所蔵)やこの展示で初めて県外に出たという同じく国宝の「綴織当麻曼茶羅」(奈良・当麻寺所蔵)でしょうか。この二つは東京会場では展示替えがあり、拝見できる期間が限られておりましたが、京都会場では全期間で展示されており、いつでも拝見できるのはありがたいですね。

早来迎とは、極楽浄土から阿弥陀様と菩薩様が雲に乗って、この世での命が尽きた往生人のところへ、びゅんというスピード感をもってお迎えいただける様子が描かれた来迎図であります。京都からいらっしやった早来迎の阿弥陀様の東京会場での展示は全期間の半分なので、お帰りなるのも早かった、なんて残念がる方もいたそうです。

当麻曼茶羅とは「観無量寿経」に説かれる王舎城の悲劇(アジャセ王子が父王ビンビサーラと母である妃のイダイケを幽閉し、イダイケの求めに応じてお釈迦の説法が始まる物語)、十三観(極楽の有様や阿弥陀様をイメージするために十三のステップを踏んだ修行法)、九品(この世での過ごし方によって九段階に分かれる極楽往生の仕方)が外枠にかたどられ、真ん中には阿弥陀様や極楽の様子が大きく描かれています。梅窓院では当麻寺の曼茶羅を模写した大きな掛け軸を所蔵しており、開山忌や十夜法要とその前後の期間に、本堂向かって左手の壁におかけしております。十夜などにお参りの際はご覧いただければ幸いです。

秋のお彼岸が近づいてまいりました。皆様とご一緒に
お念仏できますことを楽しみにしております。

合掌

(副住職 中島真紹)

令和6年度 秋のペット慰霊法要のお知らせ

梅窓院僧侶がご供養をいたします。ぜひご参列ください。

開始時間: 正午～ 2階本堂

主催: 株式会社ジャパンエキスパートシステム



秋彼岸とは

彼岸会は日本仏教ならではの行事で起源は約1400年前の奈良に遡ります。悟りを得るための行事ですが今ではお墓参りがメインになっています。

梅窓院の
墓苑に

お散歩しにくる小鳥たち

東京の真ん中にある梅窓院ですが、いろいろな小鳥たちが遊びに来ていることはご存知ですか。朝や夕方の訪問が多いようですが、昼間に姿を見かけたり鳴き声を耳にすることもあります。

下の地図を見ていただくと梅窓院を取り囲むように公園や庭園が並び、そして東京湾が広がっているのが分かります。

左のページでは編集部が選んだ6種類の小鳥たちを写真とともにご紹介しますが、他にもツグミやジョウビタキのような冬の渡り鳥や、青く長い尾が美しいオナガ、歩く姿が可愛いハクセキレイなどの姿も見られます。梅窓院には鳥たちがやってくる緑と四季がありますので、今度のお墓参りではぜひ木々を見上げてみてください。きっと小鳥たちの姿や鳴き声に癒されることでしょう。

なお、QRコードを読み取ると各鳥の鳴き声を聞くことができます。



中央が梅窓院。周辺には多くの公園や庭園などの緑地があり、小鳥たちの住まいになっているのかもしれない。



エナガ

見た目がかわいいと若い子にも大人気でステーションリーやグッズになっていたりします。並んで体を寄せ合っている様子は「エナガだんご」って言われて、これまたキュートと評判なんですよ〜。



名前にあるナガは尾がながいことからつけられたようです。和名のエナガは神社の手水場に置いてある柄杓がその名の由来。鳥同士の仲も良く、1羽だけでなく、群れでさえざる姿がしばしば見られます。

ボクたちはオスとメスで色が違うんだ、オスは綺麗な青色が特徴で幸せの青い鳥のよう♪春には水笛のような旋律で鳴くから、みんなをメロメロにしちゃうよ。



インヒヨドリ



外見がヒヨドリに似ていることからインヒヨドリと名付けられていますが、ヒヨドリ科ではなく、ヒタキ科に属します。海に生息しますので、東京湾から青山へしばしば散歩にくるようです。



ヒヨドリ

果物や花の蜜、木の実が大好物の美食家だ。賢い鳥として平安貴族に大層愛された、なんて歴史もあるぞ。和歌にも詠まれてる。



ヒヨドリ科に属し、少し大きめでホホに褐色の模様があり日本に多く生息しています。ちなみに、墓苑清掃をしてもすぐに糞をしてしまうことから、職員の頭を悩ませている困ったさんです。

私を見かけたら春の訪れのサインです。そうそう、あの有名な一休さんのお小僧時代に引導を渡された、なんてエピソードがあるんですよ。



シジュウカラ



街中でよく見かける小鳥。白いホホとお腹の黒い帯が目印で、黒い帯がネクタイのように見えるのが特徴です。とても知的で、鳥の中で唯一、鳴き声で会話していることが研究で分かっています。

スズメ

いつも同じ模様なのですが、夏は涼しい夏羽に、冬はより暖かい冬羽にファッションチェンジしているのです！気が付きましたか？



水苑で水浴びしている編集部撮影の一枚です。スズメが朝からさえざる日は晴れると言われており、この日もかんかん照りでした。昔は電線に並んでとまっていることが多く、その様子が歌詞にもなったこともあります。



メジロ

ウグイスとよく間違えられちゃうんだけど違うからね！夫婦愛がめっちゃくちゃ強くて、ずーっと一緒に行動してるんだ！素敵でしょ？



春の訪れを知らせる鳥で、こちらは梅窓院の梅にとまっている編集部撮影の一枚です。目の周りが白い輪の模様になっていることからメジロと命名されました。江戸時代から文化的にも親しまれています。

日本の古典芸能のひとつ、狂言。もともと唐の時代の中国から奈良時代の日本に伝わった散楽が平安時代に猿楽となり、その本芸が今の狂言になったそうです。今号では十世 三宅藤九郎さんにご登場いただきました。

◆本日はお忙しい中、梅窓院にお越しいただきありがとうございます。三宅家は明治初期に京都から東京へ転居され、梅窓院にお墓をとられました。平成2年に先代の九世三宅藤九郎さまのお葬儀を梅窓院で行っていますね。記録には十世が喪主を務められたと記されています。

三宅藤九郎(以下藤九郎) はい、私が18歳の時でした。先代は祖父にあたるのですが、すでに私が十世を継いでいたので、白装束で喪主を務めたのを覚えています。

◆当時は梅窓院がまだ伽藍を建て直す前で、昔の祖師堂が葬儀会場だったようですね。

藤九郎 そうです、先代が人間国宝でしたので本当に多くの方に弔問いただきました。最後の喪主の挨拶を広い境内で大勢の方の前でさせていただいた写真が残っています。

◆大きな葬儀での喪主は大変でしたね。

藤九郎 はい。ですが先代の長男で私の父、和泉元秀(和泉流十九世宗家)がいましたので、何とか務められました。

◆そうですか。祖父である九世から十世を継がれたのはいつ頃でしょうか。

藤九郎 私は1歳半で稽古を始め、3歳で初舞台を踏み、小学校6年の時に後を継ぐように言われ、中学3年、14歳の時に襲名させていただいています。

◆1歳半からお稽古開始ですか。やはり伝統芸能を継ぐというのは大変なのですね。

藤九郎 小さい頃からそういう環境にいると、それが当たり前ですし、長じれば家を継ぐことの大切さも自然と理解しますので、やるべきことをやってただけ、という感じです。

◆なるほど。藤九郎さんは姉・和泉淳子さんとともに初の女性狂言師として伝統芸能の担い手となっていらっしゃるようですが、狂言や能の世界で活躍されている女性は多いのでしょうか。

藤九郎 狂言と能を合わせて24流ある中で、女性禁制を謳っているのは1流だけです。それでも女性は少ないですが、二十世宗家和泉元彌の長女と姉の長女、次世代の女性狂言師も育っています。

◆そうなのですか。能と狂言は一對のイメージがあるのですが、いかがでしょう。

藤九郎 もともと猿楽の能芸から能、本芸から狂言が生まれました。能はどちらかという悲劇的、長時間で文語調の謡と舞。狂言は喜劇的で短時間で、



住職とは幼少期からのお付き合いなのだとか

口語の台詞劇です。能と狂言を合わせて能楽といい、江戸時代には幕府の式楽として一緒に演じられました。明治以降、狂言尽くしの公演も一般的になっています。

◆そうですか。まだまだ伺いたいことばかりですが、最後に藤九郎さんの目標、夢をお聞かせ下さい。

藤九郎 はい、狂言も能も神仏に奉納する芸能ですが、喜劇的な狂言は観ている方の笑いを誘います。その笑いのエネルギーを世界の人に届けたいですね。

◆素敵な目標ですね。期待しています。



笑顔が眩しい藤九郎さん

プロフィール

狂言和泉流十九世宗家・故和泉元秀の次女、3歳で初舞台。14歳で人間国宝・故九世三宅藤九郎の名跡を継承。17歳で文部大臣より感謝状授与。豊かな笑いで人の心を結んできた狂言は世界への架け橋でもあると、日本全国に加え14ヵ国30数都市で講演、国際的な活動も精力的に行う。

中秋の名月

食は命

武鈴子
食養研究家

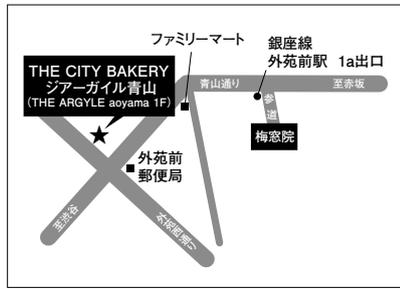
第九十六回

旧暦の「秋」は7月～9月の3ヶ月・90日間。その真ん中が8月15日なのでこの夜の月は「中秋の名月」と呼ばれます。これは中国由来の風習といわれますが、秋の夜の美しい月を見て楽しむことは古今東西共通のことでしょう。

日本最古の月見の宴は千百年以上前のことで、「年中行事百科」によれば、延喜九年(909)宇多法皇が文人を召して「秋池に月影が浮かぶ」という題で詩を詠ませたというのが最初の月見といわれます。それ以来この行事は連綿と引き継がれ、宮中での行事として定着し、月の宴は歌会であったり管弦の遊びであったりしました。

平安貴族が中国の風雅な観月を取り入れ、のちに庶民に広がると、秋の収穫物を供えて実りに感謝をする行事となりました。古くはこの日は里芋の収穫祭も兼ねていたので「芋名月」とも呼ばれ、里芋やさつまいもなどをお供えしました。

子どもの頃、母親が作ってくれたお団子を三方に盛り、ススキの穂と一緒に供えしたことが思い出されますが、江戸後期の『守貞謄稿』の月見団子の説明では、江戸の団子はまん丸だが、京阪の団子の形は「小芋ノ形二尖ラス也。然モ豆粉二砂糖ヲ加工衣トシ」とあります。この形状は今も京都で継承されているといえます。



THE CITY BAKERY

営業時間/7:30~20:00
定休日/不定休
※最新情報は店舗まで直接お問い合わせください。
席数/34席
住所/東京都港区北青山2-14-4
theARGYLEAoyama1F
TEL/03-6434-9733



名物のプレッツェルクロワッサン(右上)をはじめとしたパンがたくさん。



美味しいパンに舌鼓を打ちながら至福の時を過ごせる店内はシックな雰囲気。

THE CITY BAKERYを今号ではご紹介します。

地元で愛されるベーカリーを理想に掲げ、ニューヨークにオープンしたTHE CITY BAKERY。創業者モーリー・ルービンの、お客様に向き合う姿勢、個性豊かなパンを創造し続ける想いを引き継いでいるだけに、こだわりのパンが並んでいます。

看板商品はプレッツェルクロワッサン。バターの香るもっちりとしたクロワッサン生地、岩塩とゴマが香ばしいカリカリのクラストが魅力のひとつ。他にも美味しくそうなパンがずらり。ドリンクメニューも豊富で、名物のホットチョコレートの他、季節の移り変わりを楽しめるラインナップとなっています。また、オリジナルのマシュマロも絶品です。

テイクアウトもできますので、ご家族へのお土産にもピッタリです。墓参時などで外苑前に来られた際には、一息つくのに是非お立ち寄りください。

青山俳壇

選者「ウェブ俳句通信」編集長
大崎紀夫

◎特選

◎落とし文秘密の宝ひとつ増え

◎人選

◎喉鳴らし土用鰻に逸る猫

◎子どもたち口を開けばママ暑い

◎夏の風今日の天気は何かしら

◎浴衣着てカラコロ下駄のリズム取る

◎仏前に早糶りトマト黄の二個を

◎朝涼や愛犬の脚軽やかに

◎古簾以前のままの釘に掛け

◎冷素麺に錦糸卵を乗せてみる

◎子の笑顔手には双子のさくらんぼ

◎選者詠

◎窓下に街灯のある冷奴

ワンポイントアドバイス

芭蕉にはさみだれを集めて早し最上川(荒海や佐渡に横たふ天の川)などあり、金子兜太には(曇珠沙華どれも腹だし秩父の子)などあり、多くの俳人が固有名詞を使った句を詠んでいます。そこには固有名詞を詠む楽しさもあるようです。わたしも(仲見世を左へ入りかき水)など詠んでいます。

大崎 紀夫

投句募集

今回は「秋の季節」でご自由にお詠みください。10月11日(金)を締切り、令和7年1月発送の「新年号」にて発表いたします。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募ください。尚、選者が添削し掲載する場合がございますのでご了承ください。皆さまの投句をお待ちしております。

〒107-0062 港区南青山2-26-38
梅窓院「青山俳壇」投句募集係
FAX:03-3404-8436(梅窓院広報部)
メール:bunkamura@baisouin.or.jp

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。

ウェブ編集室
電話03-5368-1870

会計報告を本誌に掲載させていただいております。ご確認を宜しくお願いいたします。

自 令和 5年4月 1日
至 令和 6年3月31日
(単位：千円)

■護寺費・年会費・墓地管理費

収入の部		支出の部	
護寺費・年会費として	138,388	浄土宗課金及び大本山宛志納金	3,368
		法要費(仏具・法衣・線香など)	31,117
墓地管理費として	34,005	保守修繕費(建物)	285,762
		保守修繕費(墓苑・境内)	19,217
梅窓院からの繰入金	214,501	人件費	41,379
		事務費(郵送費・コピーなど)	6,051
合計	386,894	合計	386,894

令和6年度

後期 仏教講座のご案内

梅窓院では10月より「令和6年度後期仏教講座」を開講します。今年度後期も4名の先生が担当します。どうぞお気軽にご参加ください。

※詳細は別紙チラシをご覧ください。

墓地管理費と
護寺費について

毎年お納めいただく墓地管理費は墓地の通路や東屋、水屋などの共有部分の維持管理や清掃に充当するものになります。また、護寺費は寺の維持運営に充当するもので法要時の線香、仏花、仏具、保守管理や修繕に使わせていただいております。

個人の墓地の清掃や管理の費用には充たられませんこと、ご理解のほどお願い申し上げます。大切なご先祖様が眠られている各家のお墓の清掃、お花の処分などは、ご自身でされますようお願いいたします。

尚、諸事情でお墓参りができない方には別表の墓苑代行作業(有料)がございますので、ご利用ください。

梅窓院墓苑代行作業のご案内

代行作業内容	料金	備考
草むしり	3,300円～	料金は現地確認の上、お見積もりをいたします。
墓石洗い	3,300円～	料金は現地確認の上、お見積もりをいたします。 薬剤は使用しない手洗いです。墓石に浸み込んだ水垢・苔・シミなどは除去できない場合がございます。
植木手入れ	3,300円～	料金は現地確認の上、お見積もりをいたします。 根本からの伐採または、伸びた枝の簡単な剪定のみ行います。
代参	2,200円 + 香花代	香花のお供えを代行いたします。 墓参の際に飾る香花代(花と線香)は実費となります。墓石洗いと同時申込みの場合は、2,200円の作業料はかかりません。(香花代の実費のみ)
その他、上記以外の作業		料金は現地確認の上、個別にお見積もりをいたします。

注意事項

※お施主様以外の方からの申し込みはお受けできませんので、ご了承ください。
※作業日時限定及び土日・行事前の作業はお受け出来ませんので、ご了承ください。
※年間契約をされた場合、弊社から契約更新についてのご連絡はいたしませんので更新する際はご一報ください。

【梅窓院墓苑代行作業のお申込み・お問い合わせ先】

青山梅窓院墓苑総販売代理店 株式会社ジャパンエキスパートシステム
〒107-0062 東京都港区南青山2-22-14 フォンテ青山910
TEL:03-3404-1230 FAX:03-3404-8446
E-mail:info@expert.co.jp

墓苑代行作業のお申込みは
こちらのホームページを
ご覧ください



梅窓院駐車について

午前8時～午後8時15分

上記以外の時間はいかなる理由がありましても出入りできませんのでご注意ください。

なお、早閉めの際は入出庫不可時間が変わる可能性があります。必ずホームページまたは受付・休憩所の掲示をご確認の上、ご来寺ください。

休憩所の麦茶の提供終了について

これまで長きにわたり休憩所において麦茶を提供して参りましたが、昨今の情勢により安心安全に麦茶を提供する事が難しく、大変心苦しくはありますが麦茶提供を終了させていただくことになりました。

受付横に自動販売機を設置いたしましたので、水分補給等は自動販売機をご利用ください。ご迷惑をおかけいたしますが何卒ご理解ご了承の程よろしくお願い申し上げます。

喫煙所(灰皿)撤去について

境内及び墓地内において喫煙所(灰皿)を設置しておりましたが、健康増進法・東京都受動喫煙防止条例に則り令和6年6月30日を持ちまして撤去させていただきました。

喫煙される皆様にはご不便をおかけいたしますがご理解・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

お檀家様には、受付にて携帯灰皿のお貸出しをいたしますので、受動喫煙を生じさせることがないように周囲の状況に配慮をいただいた上で喫煙をお願いいたします。

発行 梅窓院
発行日 令和6年9月1日
発行人 中島 真成
編集 梅窓院 広報部

住所 〒107-0062 東京都港区南青山2-26-38
電話 03-3404-8447
FAX 03-3404-8107
ホームページ <https://www.baisouin.or.jp/>

E-Mail jodo@baisouin.or.jp
題字 中村康隆元浄土門主
総本山知恩院第八十六世門跡